



化石のロマンを追って。歌津に「ミュージアム」オープン

高橋直哉さん



ミュージアム内部は豊富な化石展示と解説パネルで初心者でも存分に楽しめます。

NAOYA TAKAHASHI

古 くらから数多くの化石や遺跡が産出する南三陸町。震災以前にも世界最古級の魚竜化石が見つかり、「歌津」の名を冠した「ウタツサウルス」で注目を集めていました。しかし、魚竜化石などを展示していた「魚竜館」は東日本大震災で被災。貴重な資料も多くが流出してしまいました。

そんな中、震災後の高台移転などの復旧工事の現場から新たな化石や遺跡が発見。なかには新種の化石もあり、貴重な資源の大発見となりました。歌津泊浜で漁業を営む高橋直哉さんは震災後、化石の発見や、研究者との出会いの中で化石のおもしろさに魅了されたそうです。「化石が見つやすい環境で、車で20〜30分の距離で、1億年分の時代を歩めるのが南三陸のすこさ」と話します。仲間とともに企画した化石発掘体験は、子どもたちを中心に大人気プログラムとなっています。また、地元の担い手として、研究者と地元の地権者などの橋渡し役も担っています。今年の夏には、農水産物直売を行っている「みなさん館」内部をリニューアルし、豊富な化石展示を行う「みなみさんりく発掘ミュージアム」をオープン。「これから南三陸は化石の町として盛り上がっていくはず。期待していただい！」と意気込んでいます。

震災後に始めた、こだわりの味と笑顔が自慢の焼き鳥屋さん

芳賀光江さん

移 動販売も行っている『やきとり・なっちゃん』。普段は志津川御前下地区国道398号沿いの小さなプレハブで営業しており、夕方は勤め帰りのお客さんが大勢立ち寄る人気店です。「いらっしゃい！元気だった？」いつも明るく出迎えてくれるのは店主の芳賀光江さん。どうして店名が『なっちゃん』なのですか？「孫の名前を借りているの。やきとり・みっちゃんより良いでしょう！」と、満面の笑みで答えてくれました。

震災前は、ご主人と二人で駅前のホームセンター駐車場の一角で『大島青果（おばたけいか）』という八百屋を営んでおり、旬の野菜を販売し常連さんで毎日賑わっていました。まさかの津波で店舗を失った芳賀さん夫妻は、たくさんの人の支援を受けて同じ場所です青果店を再建。しかし、復興工事の関係で移転を余儀なくされました。青果店の規模が縮小、ご主人だけで間に合っていたからと光江さんは、友人の助言を受け、焼き鳥販売を手掛けるようになりました。軽トラックの荷台を改装した移動販売車でイベント会場や『結の里』に出かけることもあるそうです。

「一番人気は『ねぎま』だけど、どれも自信作よ」。今日もみっちゃんは、笑顔で接客に大忙しです。

MITSUME HAGA



週1回『結の里』で開店する移動販売車でも、炭を起こす作業から始めるそうです。国産の鶏肉、入谷地域で作られた炭、光江さんオリジナルのタレ。こだわりの味が自慢です。